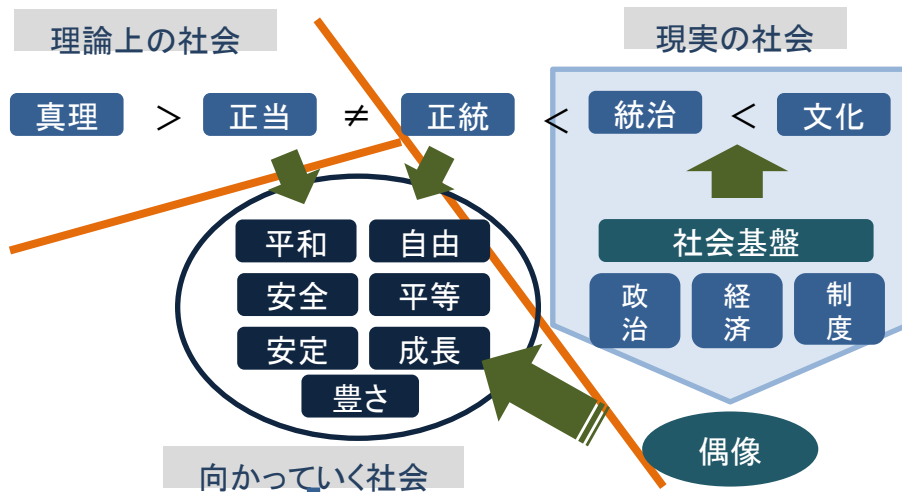
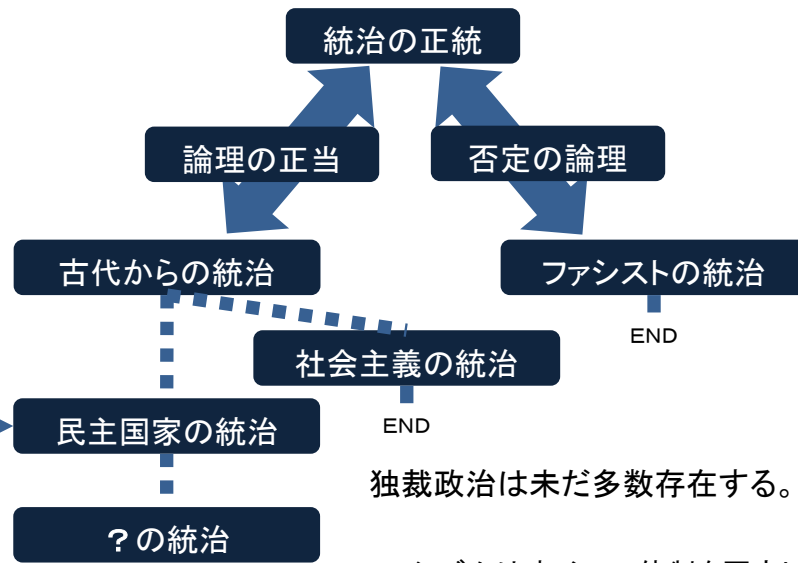


# 社会が求め続ける自由と平等

自由、平等、平和は、人類が求める姿である。この姿を原則として社会制度が変化してきた。



国を統治するために、統治の「正統性」が問われてきた。人々の生活、心情を安定されるために、「正当」な論理が組み立てられた。「論理の正当性」である。「正統性」のために、現在でも「論理の正当性」が求められている。



正当と正統、社会の原則の3つを  
組み合わせて検討しなければならない。

過去にいくつもの統治システムが存在した。絶対君主、封建から社会主義、民主主義があった。現在、世界の多くに見られるのは民主国家であり、資本主義国家である。だが、民主国家と名付けられる形態が最適であるとは限らない。格差社会が現れている現在では、民主国家がマシであるとされているに過ぎない。経済システム、統治システム、福祉システム等々を含めて正当な論理が求められている。

経済はグローバルへと進み、ブロック経済が成立している。未だ十分ではないが、ブロック経済が進化し始めた。組織活動は、グローバル化していて、従来の組織のまとめ方が変わってきた。現在までの経済理論、経営理論が変化し始めている。経済社会であるが、経済制約の枠組みが変化している。社会システムと経済システムの新理論が生まれてくる可能性が高い。

独裁政治は未だ多数存在する。

ファシズムはすべての体制を否定した。信条も否定した。論理をも否定した。ファシズムの論理に論理がなく、信条も論じられなかった。

すべてを否定するところに一種の「期待」が集められたのかもしれない。その根底にあったのは、不安定に対する不満だった。